

認知症患者の 通所サービス導入に向けて 訪問看護の介入

医)あいち診療会

あざい訪問看護ステーション

安藤 貴子

はじめに

認知症高齢者には通所サービスが必要と考えても受け入れられない人が多い。

その理由は彼らが新しい人間関係作りが苦手であるためと考えなじみの関係を獲得した訪問看護師が、少人数で利用できるグループホームでのデイサービスにおける人間関係作りを手伝い、彼らがデイサービスを受け入れられるよう働きかけた。

A氏

- * 家族背景 夫、息子夫婦(共働き)の4人家族
日中は老夫婦のみ
家族内の人間関係に不満をもち、それが
積もると昼間喧嘩をする。しかし夫を
頼ってもいる
- * 活動性は少ない

作戦

- * なじみの看護師と外出を日常化する
- * 仲間となる相手を探す
 - ⇒ 夫、子供の元教師
- * 受け入れられるデイサービスを探す
 - ⇒ GHでの短時間デイサービス
- * 顔見知りである看護師も配置
- * 送迎は訪問看護師が行い、デイスタッフに移行する

具体的行動

- * 訪問看護時をデイサービス日に設定し、その気になった時に参加をする
- * デイサービスのレクリエーションはそれぞれの人にあった達成感の得られるものを選んだ
- * 参加できた時には、本人が味わった快の刺激を共有し記憶に残るよう働きかける



考察

参加を渋る認知症患者のデイサービス導入を試み成功したポイント

- 1・人間関係が成立している3人を一つの単位として連れ出した
- 2・グループホーム入居者との関わりを徐々に広げた
- 3・看護師はそこでも関わり、役割を他のスタッフに少しずつ移譲した

認知症高齢者といえども徐々に環境になじむことができたなら新しい環境を受け入れることができる

課題：看護師のこの活動は制度としては評価されない

まとめ

有効であった要素

- * 本人の持つなじみの関係
- * 訪問看護師が作ったなじみの関係
- * 小規模の環境